

名市大西部医療センター未来プラン2021

～セイブ・ライフ・プラン～

■ 名市大西部医療センター未来プラン2021で目指すこと

地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するため、地域医療機関との連携をさらに進め、地域医療の発展に貢献するとともに、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます。また、大学病院として、充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人の育成に努めるとともに、医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます。さらに、人員・設備・資金・情報の経営資源を効率的に活用し収益の向上を図るとともに、外部環境の変化に対応し、低コストで最大の効果を上げる経営改革を推進します。

■ 社会情勢の変化・現状と課題

医療を取り巻く環境は大きな変革期を迎えており、少子高齢化やグローバル化が進展する中で、イノベーションから新たな価値を創造する「Society5.0」の実現に社会が向かっています。さらに新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした新しい生活様式へのパラダイムシフトが起きています。このような状況下では、医療の高度化・専門化により、病院の機能分化が進んでいくことが想定されるため、より先進的な医療の提供を行っていく必要があり、そうした医療を担う医療人の育成や、現在狭隘化している施設の拡充、老朽化した医療機器等の更新・新設を図っていくための財源確保が重要な課題となっております。また、疾病構造の変化を通じ、必要とされる医療の内容は、「病院完結型」から、地域全体で治し、支える「地域完結型」に変わらざるを得ないことから、地域連携をより強くしていくことが必要となります。

■ 代表的な取り組み

がん医療の充実

最先端のがん治療を提供するため、陽子線治療を提供するとともに、国が指定する地域がん診療連携拠点病院として、各種がんに対する専門医療を提供するほか、外来から入院治療に至るまで一貫したがん医療を提供します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築

専門資格の取得・学会・研修への参加・研究活動の支援を行い、医療人の育成を図ります。また安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させることにより、医療安全の強化に努めます。

名市大未来プラン2021 5-(5)

臨床研究の強化

臨床研究の推進及び産学連携のさらなる発展により、先進医療・新薬開発棟の研究活動の活性化します。また、附属病院群間の臨床研究ネットワークを構築することにより一病院一診療科で実施していた臨床研究・治験を附属病院群全てで実施可能なプラットフォームを創出します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

(1)名古屋市立大学医学部附属病院群（以下、「附属病院群」という）の連携による高度医療の推進と医療の質の向上

医療の質の向上に努めるとともに、医療ニーズに対応した適切な医療を提供します。

名市大未来プラン2021 5-(1)

【実行項目】

- ①附属病院群相互集中読影による画像診断報告書の水準向上（2023年度～）
- ②附属病院群の同一電子カルテシステムの導入による医療の質、安全性の向上（2023年度～）
- ③名古屋市立大学不育・不妊研究センターとの連携による不育・不妊センターの立ち上げ（2021年度～）
- ④学生教育と連携した「名市大連携教育プラットフォーム」の構築（2021年度～）
- ⑤クリニカルパス統合（2023年度～）
- ⑥附属病院群病床管理システムの構築（2024年度～）

(2) 地域医療連携の推進

地域医療支援病院として、地域の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供や、医療機器の共同利用等、かかりつけ医の医療を支援するとともに、急性期から在宅医療に至るまで「循環型の地域包括ケアシステム」の構築を推進します。

名市大未来プラン2021 5-(2)

【実行項目】

- ①地域画像診断センター(仮称)の設置による病診連携で高度な画像診断サービスの提供（2023年度～）
- ②地域医療機関からの診療予約の簡便化と附属病院群共通の予約システムの導入（2023年度～）
- ③西区、西名古屋医師会との連携拡大など病診連携システムの強化（2021年度～）
- ④心不全パスなど地域連携パスの充実（2021年度～）
- ⑤「はち丸ネットワーク」の活用など在宅支援センターとの連携強化を図るなど健康福祉局等との連携体制の整備（2022年度～）
- ⑥看護師、薬剤師等による地域の医療施設への訪問教育の実施、研修会の開催（2021年度～）
- ⑦附属病院群で心不全サポートチームの発足（2021年度～）

(3) がん医療の充実

最先端のがん治療を提供するため、陽子線治療を提供するとともに、国が指定する地域がん診療連携拠点病院として、各種がんに対する専門医療を提供するほか、外来から入院治療に至るまで一貫したがん医療を提供します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

【実行項目】

- ①局所進行非小細胞がんの治療における陽子線及び化学療法の推進（2021年度～）
- ②がんゲノム医療の拡充（2021年度～）
- ③がんに対する薬物療法などの拡充（2021年度～）
- ④患者数の増加に対応するため狭隘化した化学療法室などがん治療にかかる施設の拡充（2023年度～）
- ⑤JMIP（外国人患者受け入れ医療機関認証制度）取得による外国人患者への対応充実（2022年度～）

(4) 横断的な診療体制の構築による医療の質の向上

診療科や職種の枠を超えて、患者の症状に合わせた質の高い治療を連携して行います。

名市大未来プラン2021 5-(3)

【実行項目】

- ①アレルギーセンターの立ち上げ（2021年度～）
- ②歩みセンターの立ち上げ（2021年度～）
- ③不育・不妊センターの立ち上げ（2021年度～）（再）

(5) 小児・周産期医療の強化

地域周産期母子医療センターとして母体・胎児の異常や新生児・早産児に対する専門的な治療を提供するとともに不育・不妊などニーズに対応した専門的医療を提供します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

【実行項目】

- ①母体・胎児の異常や新生児に対する専門的な治療の提供（2021年度～）
- ②ハイリスク分娩の受け入れ（2021年度～）
- ③BFNICU（赤ちゃんにやさしいNICU）の認定の取得（2022年度～）
- ④不育・不妊センターの立ち上げ（2021年度～）（再）
- ⑤男性不妊症治療の提供（2021年度～）
- ⑥不育・不妊治療を拡充するための体制および施設の整備(2024年度～)

(6) 脊椎疾患医療の充実

高齢化により増加する脊椎疾患に対し、脊椎センターにおいて、患者の身体的負担の少ない手術を提供します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

【実行項目】

- ①低侵襲手術の提供及びそのための先進的な医療機器の整備（2021年度～）
- ②歩みセンターの立ち上げ（2021年度～）（再）

(7) 災害拠点病院としての医療機能の充実

災害拠点病院として、大規模災害時に、市民および近隣医療機関に対して、適切な医療およびサポートを提供できるように、災害対応体制を整備します。

名市大未来プラン2021 5-(4)

【実行項目】

- ①近隣の産科医院と連携し、大規模災害時に、分娩や入院が必要な妊産婦受け入れるための施設及びシステムの整備（2024年度～）
- ②大規模災害時に職員の状況を把握できるようにするため、大学の職員安否確認システムを導入（2022年度～）
- ③相互にアクセス権限がある同一電子カルテを用いることなどにより、大規模災害時に最寄りの病院で活動できる仕組みの構築（2022年度～）
- ④名市大「救急・災害医療センター」を活用したインストラクターの養成やシミュレーターの新規購入による対応能力の向上（2021年度～）

(8) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築

専門資格の取得・学会・研修への参加・研究活動の支援を行い、医療人の育成を図ります。また安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させることにより、医療安全の強化に努めます。

名市大未来プラン2021 5-(5)

【実行項目】

- ① 附属病院群を併せた教育プログラムを作成し、subspecialistによる高水準の教育体制を確立することによる初期・後期研修医教育システムの構築（2021年度～）
- ② 薬剤師の専門資格の取得、スキルアップのための学会・研修への参加や研究活動等に対する支援（2021年度～）
- ③ 認定看護師の育成及び活用推進（看護外来の推進、地域貢献）（2021年度～）
- ④ 看護師、社会福祉士が、入退院支援職員、診療連携担当職員として必要な知識や専門資格の取得、スキルアップのための学会・研修への参加や研究活動等に対する支援（2021年度～）
- ⑤ 放射線技師の地域がん診療連携拠点病院等の要件とされる免許・認定の取得の促進（2021年度～）
- ⑥ 産婦人科専門研修プログラムを基幹施設への格上げ（2022年度～）
- ⑦ 学生教員と連携した「名市大連携教育プラットフォーム」の構築（2021年度～）（再）
- ⑧ 診療情報管理士や医療情報技師の資格取得促進など事務職員の専門能力の育成（2021年度～）
- ⑨ 安全な医療の推進を行うために、附属病院群による医療安全に関する活動の統一化、定期的な合同会議開催、課題解決にむけた連携（2021年度～）

(9) 働き方改革および女性の活躍推進

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や育児や介護との両立など、働く方のニーズの多様化に対応するため、仕事の効率化などによる働き方改革を実行します。また、女性が働きやすい環境を整備し女性の活躍を推進します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

【実行項目】

- ① 医師の業務を軽減し、看護師がその役割をさらに発揮するため、特定看護師の配置（2022年度～）
- ② フレキシブルな働き方の推進（2021年度～）
- ③ 女性が活躍できる各種制度の改革推進（2021年度～）
- ④ 病院執行部への女性登用の推進（2021年度～）

(10) 先端医療の実施

手術支援ロボットを導入し、からだへの負担が少ない低侵襲手術が可能となるほか、先進的医療機器の導入により先端医療を導入するとともに、附属病院群のスケールメリットを生かしてビッグデータの活用を図ります。

名市大未来プラン2021 5-(6)

【実行項目】

- ①ロボット手術の導入による高度医療の推進、遠隔手術の導入（2021年度～）
- ②附属病院群ITシステムの統一化によるビッグデータをデータサイエンス学部（仮称）と連携して活用（2023年度～）
- ③AIを活用した診断支援システムの導入（2023年度～）

(11) 臨床研究の強化

臨床研究の推進および産学連携のさらなる発展により、先進医療・新薬開発等の研究活動を活性化します。また、附属病院群間の臨床研究ネットワークを構築することにより一病院一診療科で実施していた臨床研究・治験を附属病院群全てで実施可能なプラットフォームを創出します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

【実行項目】

- ①研究室のスペース確保等研究環境の整備（2023年度～）
- ②附属病院群を活用した臨床研究・治験ネットワークの構築（2022年度～）
- ③大学病院として先進医療の導入を推進（2021年度～）
- ④附属病院群のIRBの統一（2022年度～）
- ⑤附属病院群の臨床研究・論文作成について研究者の立場に立った支援システムの構築（2025年度～）

(12) 安定経営のための経営改革の推進

ガバナンスを強化することにより、人員・設備・資金・情報の経営資源を無駄なく活用し収益性を高めます。外部環境の変化に柔軟に対応し、診療収入の確保や業務の効率化を図ります。積極的で継続的な経営改革や組織改革を進め、経営の安定を図ります。

名市大未来プラン2021 5-(8)

【実行項目】

- ①医療機器の計画的な更新・整備（2022年度～）
- ②薬品、医療材料等の一括購入によるコストの削減（2021年度～）
- ③効率的な病床運営のための病床再編の実施（2023年度～）
- ④戦略的な広報の推進（2021年度～）
- ⑤寄附等外部資金の増加（2021年度～）
- ⑥PFI等民間資金を利用した施設整備を行い戦略的投資を推進（2023年度～）